

令和4年度 決算 を報告します

大型ハード整備・新型コロナ・物価高対策

令和4年度の決算は、前年の記録的大雪に対し、平年並みの降雪量であったことにより除雪経費が減少した一方、障がい者グループホームや杉崎公園リニューアルなどの大型ハード整備の着実な推進、新型コロナウイルス対策やさまざまな物価高騰対策により対前年比歳出決算額は微増となりました。



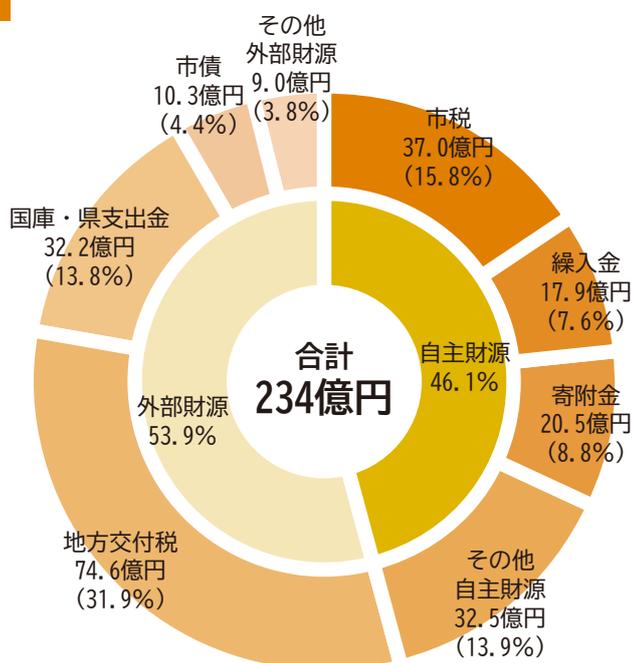
歳入 234億円

歳出 218億円

翌年度繰越金

= 13億円の黒字

一般会計 歳入 前年比+0.6億円(+0.3%)



歳入の前年比較

国庫・県支出金 -2.3億円(-7%)

- ・特定事業に国や県から交付されるお金
新型コロナウイルス対策のための交付金や臨時道路除雪事業費補助金などの減少

地方交付税 -5.6億円(-7%)

- ・行政サービス水準確保のため国から交付されるお金
合併特例事業債などの借入金完済による措置額減や除雪経費の反動による減少

繰入金 +2.2億円(+14%)

- ・貯金(基金)を取り崩したお金
スキー場リフト整備、消防庁舎改修等のハード事業やソーシャルビジネス支援交付金の財源に基金を活用

寄附金 +1.8億円(+10%)

- ・ふるさと納税寄附金など、市内外からの寄付
ふるさと納税として全国から寄付を賜り、過去最高額を更新

返礼品(+1,668商品)・返礼品取扱事業者(+35事業者)の増加、市内事業者の皆さんのたゆまぬ努力の結果、**ふるさと納税寄附金 18.9億円**となりました!!

【主な用途別寄附額】

- ・地域振興・観光・まちづくり・防災に関する事業 6億1,030万円
- ・福祉・子育て支援等に関する事業 2億8,428万円
- ・教育・文化等に関する事業 2億5,130万円
- ・こどものころクリニックの運営に関する事業 1億280万円
- ・飛騨市のこどもたちを大きく育むプロジェクト 8,705万円

【主な寄附金の活用】



市内公園の整備



姉小路氏山城群整備・活用

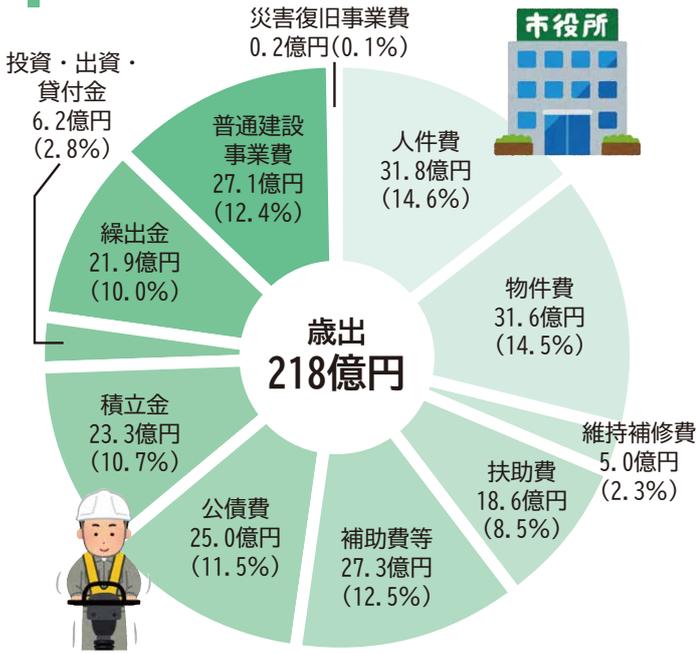


子どもたちのスポーツ支援



ありがとう給食の実施

一般会計 歳出 前年度比+0.4億円(+1.8%)



歳出の前年比較

補助費等 +0.5億円(+24%)

- 個人・団体への補助金など
- ソーシャルビジネスへの交付金や、新型コロナ・物価高騰対策に係る補助金の増

普通建設事業費 +0.7億円(+33%)

- 道路や公共施設の整備費用など
- 障がい者グループホーム等整備や杉崎公園リニューアル、美術館大規模改修など

扶助費 -0.4億円(-18%)

- 児童手当や生活保護、障がい者支援に対する給付など
- 前年子育て世帯や非課税世帯に給付する国の施策終了による反動

維持補修費 -0.4億円(-46%)

- 公共施設の修繕や道路除雪費など
- 記録的大雪となった前年の除雪経費の大幅減

実施した主な市独自の新型コロナウイルス対策・物価高騰対策

目的	事業	決算額	事業内容
感染対策	抗原定性検査キット購入助成金	7,070万円	医療用抗原定性検査キットを500円で購入
	まちなか簡易検査センター設置運営	1,421万円	市民病院の巡回診療として無料検査所を設置
経済対策	いきいき地域生活応援事業	7,311万円	物価高騰追加交付や温浴施設フリーパス券の交付
	プレミアム商品券発行事業	2,975万円	プレミアム率20%の商品券の発行
	低所得世帯に対する灯油券交付事業	2,213万円	灯油購入に利用できる15,000円の助成券の支給
物価高騰対策	医療・介護・障がい福祉サービス施設等への支援	4,594万円	価格転嫁できない施設に対する支援
	指定管理施設への支援	3,976万円	光熱費高騰分を指定管理者に交付
	畜産事業者の安定的な経営に対する支援	5,433万円	飼料価格高騰分に対する支援

特別・企業会計の状況

特別会計全体では実質収支額（歳入歳出の差引額から翌年度に繰り越す一般財源を除いた額）は、3億867万円となり健全な事業運営が行われています。

特別会計	歳入決算額	歳出決算額	実質収支額	
特定の事業を行うため一般会計とは別に置かれた会計	国民健康保険	28億4,800万円	27億7,063万円	7,737万円
	後期高齢者医療	4億4,137万円	4億3,383万円	754万円
	介護保険	33億6,339万円	31億5,712万円	2億627万円
	公共下水道事業	11億2,782万円	11億2,121万円	199万円
	特定環境保全公共下水道事業	1億7,695万円	1億7,488万円	207万円
	農村下水道事業	3億3,264万円	3億2,759万円	506万円
	個別排水処理施設事業	1,424万円	1,332万円	92万円
	下水道污泥処理事業	1億6,886万円	1億6,885万円	1万円
	駐車場事業	270万円	177万円	93万円
	情報施設	2億4,598万円	2億3,964万円	635万円
	給食費	3,307万円	3,290万円	17万円
	計	87億5,502万円	84億4,173万円	3億867万円

公営企業会計	収入決算額	支出決算額	資金剰余額	
地方公営企業法の適用を受けて営利的事業を行う会計	水道事業（収益）	5億9,772万円	4億9,606万円	12億1,936万円
	水道事業（資本）	4,258万円	2億5,867万円	
	国民健康保険病院事業（収益）	16億7,925万円	17億25万円	15億180万円
	国民健康保険病院事業（資本）	1億5,098万円	2億9,289万円	
	計	24億7,053万円	27億4,787万円	27億2,116万円

※本表は歳入歳出決算額を万円単位で四捨五入表示しているため、数値が一致しないことがあります

POINT!!

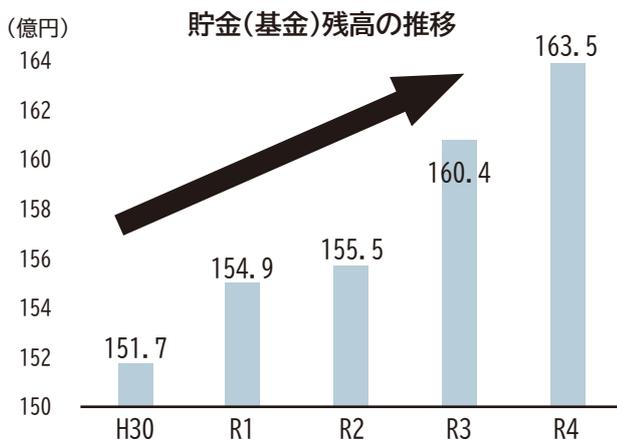
飛騨市(全会計)の貯金は増加・借金は減少



貯金(基金)の状況

文化・交流振興基金を活用して美術館大規模改修を行い、公共施設管理基金では市役所本庁舎空調機器更新事業やスキー場リフト整備等のハード事業中心に基金を活用しました。

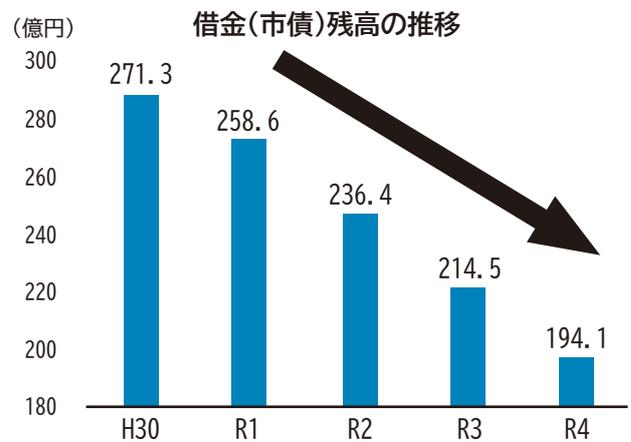
一方で、今後の事業展開を見据え、決算剰余金などをもとにした基金積立をおこなった結果、基金残高は3億円増加し、過去最高となりました。



借金(市債)の状況

発行した主な市債は、障がい者グループホーム等整備事業や道路新設改良事業などに充てた過疎対策事業債6億6,540万円、神岡小学校大規模改修事業に充てた防災・減災国土強靱化緊急対策事業債9,030万円、美術館大規模改修事業に充てた合併特例債7,900万円、臨時財政対策債1億861万円などがあります。

市債残高は平成24年度をピークに10年連続で減少しています。

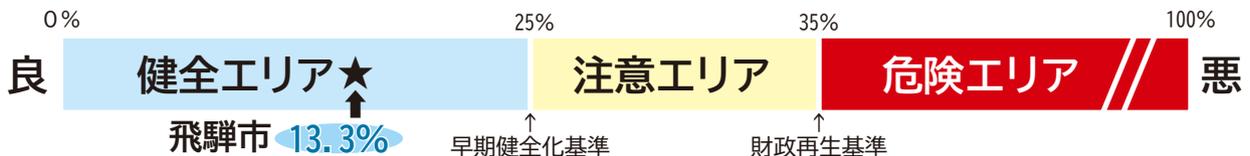


財政健全化判断比率等の状況

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、市の財政状況を判断するための指標を公表します。令和4年度も全ての項目で国の定める基準を下回っており、財政の健全性が保たれています。

健全化判断比率	R4数値	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	13.22%	20.0%
連結実質赤字比率	—	18.22%	30.0%
実質公債費比率※	13.3%	25.0%	35.0%
将来負担比率	—	350.0%	
資金不足比率	—	経営健全化基準 20.0%	

※実質公債費比率…借入金の返済額などの大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示すものです



審査意見総括

本市の財政は、健全な状態は維持されているものの、今後の人口減少に伴う地方交付税の見直しなど依存財源が抑制される傾向にあります。自主財源確保に向けた積極的な取り組みや行財政の効率化に努め、健全かつ公正な財政運営を強く望みます。

8月23日 意見書を都竹市長へ提出する島田哲吉代表監査委員(中央)と徳島純次議会選出監査委員(左)

